

制 定	平成 22 年 2 月 4 日
一部改正	平成 24 年 4 月 1 日
一部改正	平成 25 年 4 月 1 日
一部改正	平成 26 年 4 月 1 日
一部改正	平成 27 年 4 月 1 日
一部改正	平成 28 年 4 月 1 日
改 正	平成 29 年 4 月 1 日
一部改正	平成 30 年 4 月 1 日
一部改正	平成 31 年 4 月 1 日
一部改正	令和 2 年 4 月 1 日
一部改正	令和 3 年 4 月 1 日
一部改正	令和 6 年 4 月 1 日

基本方針

鹿児島純心女子短期大学（以下「本学」という。）は、「聖母マリアのように 神さまにも人にも喜ばれる女性の育成」を建学の精神とする高等教育機関です。

本学はキリスト教ヒューマニズムに基づく人間教育により、豊かな人間性と高い専門的能力を備えた女性を育成し、社会の持続可能な発展と平和に貢献できる人材を輩出することを目的とし、日々教育と研究とに邁進することを使命としています。

この基本方針に基づき次の三つの方針を定めます。

なお、全学及び教育課程ごとの一貫性のある方針を構築するため、三つの方針には「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」に基づき、「区分 1 知識・技術・理解」「区分 2 汎用的技能」「区分 3 態度・志向性」「区分 4 総合的な学習経験と創造的思考力」の 4 つの区分を設け、さらに高大接続の観点から「学力の三要素」を「区分 1」「区分 2」「区分 3」の 3 つの区分に取り入れます。

○卒業認定・学位授与の方針

本学における卒業認定・学位授与の方針を定めたものです。

次の要件を満たした者に対して、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与します。

（要件）

卒業認定・学位授与の方針に掲げた学修成果を身に付けるために編成されたカリキュラム(教育課程)に則り、本学が定める期間在学して所定の科目を履修し、予め定めた成績評価基準に基づき単位を修得した者

○教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針に掲げた学修成果を身に付けるための教育課程編成・実施の方針を定めたものです。

○入学者受入れの方針

卒業認定・学位授与の方針に掲げた学修成果を身に付けるために備えておいてほしい基礎的知識や能力を示したものです。

全学共通のカリキュラム・ポリシー

区分1 知識・技術・理解

- ・建学の精神や教育理念を理解し、人間性と社会性を高める純心教育および初年次教育の科目を配置し、実施する。
- ・国際的・社会的課題の理解を深めるための科目や、自らの関わり方を考える機会を設けて、主体的に向き合う人材を育成する。

区分2 汎用的技能

- ・キャリア教育科目を通して、自立した生活者としての基本的な技能を修得させる。
- ・最新の技術や方法・考え方に触れ、身近な課題に活用する科目を配置し、変化に適応して創造的な解決策を見つけ出す力を高める。

各学科・専攻のカリキュラム・ポリシー

生活学科 生活学専攻

区分1 知識・技術・理解

- ・ビジネスの基礎知識や現代的課題に関する基本的な知識を体系的に理解し、実務に活用できるよう教育課程を編成する。
- ・良識ある女性としての教養を培うため、地域社会や伝統的文化のもつ意味や美しさ、歴史的・社会的背景等を学ぶ科目を配置する。

区分2 汎用的技能

- ・データの基本的な取り扱いを理解し、考えや判断の妥当性を説明できるようになるための科目を配置し、実施する。
- ・言語表現や視覚的表現の技能を実践的に学ぶ科目を配置し、受け手のことを十分に意識して工夫し、表現する能力を高めることを意識して実施する。
- ・キャリア選択の状況に応じて必要な専門的知識やスキルを身に付けることができるよう配慮する。

区分3 態度・志向性

- ・自身の成長に対して継続的な関心を持ち、学びを深めることができるよう意識して、科目を配置し、実施する。
- ・既存の枠を超えて発想し、大胆に挑戦する姿勢を養うために、制作活動を実施する。
- ・周囲の評価やフィードバックから着想を得て課題を見つけ、工夫改善を続ける力を高められるよう、実践と共有の機会を活用する。

区分4 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・プロジェクト活動を実践する場を設け、互いの強みや専門性を活かした解決策・アプローチを考え続けて、最後までやりきる力を高めることを意識して実施する。
- ・リーダーシップの多様なあり方に触れて理解を深めるため、地域で活躍するリーダーや課題解決に取り組む企業・団体から直接学ぶ機会を設ける。

生活学科 こども学専攻

区分1 知識・技術・理解

- ・保育者モデルとして示される「反省的实践家」を養成するために、螺旋構造の学び（学び、深め、自分のものにするという過程）を支援する教育課程を構成する。
- ・次世代を担う子ども達の健やかな育ちを支援できる保育者として、「子どもの最善の利益」を第一に考えることのできる価値観を養う。
- ・対人援助の現場である保育の現場で直接活かせる技術力を養う。

区分2 汎用的技能

- ・コミュニケーション・スキルやマナーを養うために、子どもや保護者と直接関わる機会を積極的に取り入れた教育課程を構成する。
- ・子どもや保護者と直接関わる際に発生する問題に対し、適切に対応できる力を養う。

区分3 態度・志向性

- ・自己学習力と論理的思考能力を養うために、保育者としての課題を探究し続ける教育課程を構成する。
- ・保育者の責務を自覚し、真摯に学び続けようとする姿勢を涵養する。

区分4 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・筋道を立てて考える力、根拠に基づき判断する力を習得させる。
- ・多面的なものの見方を養うために、こども学の学びを皆で分かち合う教育課程を構成する。

生活学科 食物栄養専攻

区分1 知識・技術・理解

- ・専門教育科目群（社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営、その他）を配置して、栄養士への理解を深め専門知識と技術を修得する。
- ・栄養教諭と教職に関する科目を配置して、栄養教諭に必要な専門知識と技術を修得する。
- ・郷土の食材や料理への理解を深め関連する専門知識と技術を修得する。
- ・学外実習を配置して、社会人としての資質を養成し栄養士への理解を深める。

区分2 汎用的技能

- ・実験・実習・演習科目を配置して、実践的な思考力・判断力・表現力を養う。
- ・コンピュータ等を活用した演習を配置して、栄養士業務などの実社会で求められる情報活用能力を高めるとともに、情報モラルの育成を図る。

区分3 態度・志向性

- ・実習演習科目を配置して、グループワークを通じて協働する姿勢を養う。
- ・多様な専門教育科目を通じて、学びを継続する意義と専門性の深さを理解する。

区分4 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・現代社会の食に関する様々な課題について取り上げ、理解を深めるとともに課題解決に向けた専門性を修得する。

英語科

区分1 知識・技術・理解

- ・実践的な英語コミュニケーション能力を身に付けるために、体験型英語プログラムを提供する。

アクティブラーニングによる少人数制参加型授業や習熟度別クラス編成を通して、使える英語を育成するため、英語で行われる科目を配置する。

- ・言語の基礎知識や文化的な背景を学び、基本的なコミュニケーション能力を育成するために、英語の言語的特徴やその指導法に関する科目並びに英語以外の外国語に関する科目を配置する。

- ・郷土や我が国の伝統・文化を伝えるとともに、異文化に対する理解を深め、グローバルな社会で通用する人材を養成するため、日本や世界の地域研究等の科目を配置し、外国人学生との交流や海外研修及び海外留学の機会を設ける。

区分2 汎用的技能

- ・情報モラルの育成を図るとともに、実社会で求められる実践的情報活用能力を高めるため、コンピュータ等を活用した演習科目を配置する。
- ・グローバルな社会に対応できるビジネス、または、教職に係る実務能力を育成するために、実践的な学びの場を提供し、実社会で必要となる知識を学ぶ科目を配置する。

区分3 態度・志向性

- ・他と協働し、挑戦しようとする姿勢を養うために、様々な英語活動や異文化体験イベントをはじめ、体験型グループ学習をとおして、実践的に学ぶ科目を配置する。
- ・実社会が求める人物像を具体的に感じ取り、自らの生き方に生かすとともに、生涯を通じて学びを継続させる意欲や、企画力・表現力・行動力、さらには逞しい気力を磨くために、インターンシップやボランティアマインドなどを体験的に学べる科目を配置する。

区分4 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・問題解決力を高めるために、国内外の様々な問題を取り上げ、その解決策を考え議論し発表する科目を配置する。

・地域社会や国際社会への貢献を図るために、学内外の国際交流イベントに積極的に参画するとともに、統合的な学習経験を積むことができる科目を配置する。